

コンタクト・インプロヴィゼーション における“arriving”の概念

お茶の水女子大学大学院 福本まあや

1. 研究目的と研究方法

コンタクト・インプロヴィゼーション (Contact Improvisation 以下C.I.と略す) は1972年合衆国にてパクストン (Steve Paxton 1939-) によって始められたダンスの即興形式である。C.I.には即興活動を支えるスキルについての示唆的な考え方や指導法が見られる一方で、特有の用語法が見られ、英語を母国語としない我々にとってこの形式の理解の妨げとなっていると考えられる。こうした問題意識から本研究ではC.I.における即興の考え方を理解するための一つのステップとして、C.I.の実践者らが用いる“arriving”という語に着目し、その概念を明らかにすることを試みるⁱ。

本研究で着目した“arriving”とはC.I.クラスの導入部を指す語である。先行研究においては“arriving”という語に着目した研究は見られないが、特徴的な導入部については言及され、その経験がC.I.の即興をスムーズに行うことを可能にすると指摘されてきている。また本研究者はこれまでにこうしたクラスの導入部が作り出す特有の身心の状態を「心が身体に耳をすます状態」と指摘し、実践におけるその役割とその状態をつくり出す導入部の指導事例を報告した。しかし“arriving”という語は、実践者の記事において多く見られることがなく、語の概念を吟味するには至っていなかった。

研究方法は機関誌 *Contact Quarterly*. (1975-2005) 及び学術誌における実践者による記事及び実践者による文献を対象とした文献資料研究である。また、C.I.への参与観察記録及び指導者へのインタビュー記録を参考にした。

2. 結果と考察

(1) “arriving” — 心を身体に到着させること

スミスによる記事「Arriving/ How to put your mind where your body is.」には、どのように身体感覚を開き、いかに心 (mind) を身体感覚に集中させるか、いかに心を現在に至らせるかのプロセスが書かれているⁱⁱ。この場合“arriving”とは身体感覚を開き、心を身体の現在に到着させることを意味すると捉えられる。

カルテンブルンナーはウォーミングアップの項目の一つとして [to] arrive in the space, or to “land” と説明しているⁱⁱⁱ。この“land”は床に転がり、身体重さの感覚に集中することと捉えられ、前述の心を身体に到着させることと、ほ

ほ同義と考察される。一方 [to] arrive in the space の実際は、空間を歩くことや走ることと説明されており、身体が空間に慣れること、とも考えられる。が、空間に慣れるではなく到着するという表現には、身体はその空間にありながらも、まだ十分にその空間に到着していない要素があることを暗に示していると考察される。それはその空間から受ける印象が心に十分に連絡されていない状態と考えられる。[to] arrive in the space とは空間から感覚が受ける様々な印象に心の焦点を合わせること、と解釈される。

(2) C.I.における心と身体と“arriving”

実践者らはウォーミングアップという語も用いているが何故“arriving”という語を併用しているのだろうか。この問いにはC.I.における心と身体の役割を理解する事が助けとなるだろう。

C.I.では心とは意識 (consciousness) と同義語で用いられ、特定の知覚に焦点をあてるレンズとしての機能が重視されている。また身体は、常に変化する状況に応じて自らの反射能力に従って効率的な動きを行うことのできる賢さを備えたものとして考えられている。C.I.における即興の動きは、他者との体重のやり取りから自然発生的に生じるものである。その際、心は身体の反射能力を信頼し、今ここで身体が経験している動きの感覚に気づき続けることが重視される^{iv}。一方、パクストンが指摘するように、日常生活において心は思い出の中や将来の計画へと容易にタイム・トラベルすることができ、心が長い間、この瞬間の身体にあり続けることは稀なことである^v。“arriving”とは、こうした心のタイム・トラベルから心を身体に到着させC.I.の実践に必要な身体と心を準備すること、と捉えることができる。

3. まとめ

C.I.における“arriving”という語は、C.I.の実践において必要な身心の状態をつくり出す導入部を指す語として用いられており、それは日常生活における様々な心の動きを静め、心を今ここにある身体に到着させることと捉えられる。

ⁱ 本研究者はC.I.における“disorientation”の概念について考察し2006年6月の学会定例会にて研究発表した。

ⁱⁱ Smith, Nancy Stark. (1977) “Arriving/ How to put your mind...” *Contact Quarterly*, 3(1), pp.12-13.

ⁱⁱⁱ Kaltenbrunner, Thomas. (1998) *Contact Improvisation: moving-dancing-interaction*. (transl. by Procyk) Meyer und Meyer: Aachen, p.72.

^{iv} Paxton, Steve. (1993) *Drafting interior techniques*. *Contact Quarterly*, 18(1), p.63. ほか。

^v Paxton, Steve. and Kilcoyne, Anne. (1993) *On the brail in the body*. *Dance Research*, 11(1), p.11.